



復刊第70号  
題字 吉岡 弥生



### 臨時総会をおえて

副会長 山崎 倫子

陽春の候、先生方には御健勝にお過  
しのことと、およろこび申し上げま  
す。昨年は皆様方の絶大なご支援とご  
協力により、第十五回国際女医学会議を  
大成御座り終了することができ本当に  
嬉しく有難いこととございました。

昨年十一月十四日第十五回国際会議  
組織委員会は収支決算、監事(山本杉、  
佐藤イコ、森川みどり諸先生)の監  
査報告、前田実公認会計士の監査証明  
の報告を受けました。なお、若干の  
残務整理を残しておりますが、一応組  
織委員会の任務を終了し解散致しまし  
た。

去る二月二十七日国際女医学会議の収  
支決算による剰余金を日本女医学会計  
に移すことの承認およびその使途案に  
ついてを議題として臨時総会を開催し  
ました。使途案については理事会で検  
討したもので、臨時総会通知にご案内  
の通り、(一)日本女医学会の事務所移転  
(二)福祉施設への寄付 (三)国際フ  
ァンド増額の件 (四)学術研究者への奨  
励金です。

臨時総会には出席者九八、記名委任八  
七七、白紙委任五三九、計一、五一

四、定款第二七条の定足数八〇一に  
達し成立しました。

先ず剰余金については全員承認、別  
に国際会議のために購入した器械備品  
(IBMタイプライター、リコー複写  
機、テープレコーダー二台、およびキ  
ャビネット)が日本女医学会に移管され  
ました。次に使途案の(一)、事務所移転  
については賛成多数で可決されました  
が、(二)、(三)、(四)案については何れも決  
定をみませんでした。事務所に関して  
は、交通の便、経済性その他いろいろ  
の条件を勘案して物件の検討をするこ  
とになり委員会をつくり早速活動をは  
じめておりますので定時総会で報告が  
なされることと思えます。

記念事業も通常予算ではしたくても  
出来なかつた事柄であり、理事会で会  
を重ねて検討したものであるのですが、ぜひ  
ご考慮いただきたいものと思っております。  
そのひとつは国際会議を日本に  
開催したことを記念に剰余金の一部を  
しかるべき福祉施設に寄付したいこと  
です。国際ファンドの増額というのは  
国際女医学会、国際会議関係および国際  
交流等に必要経費を生みだす基金を

作ろうということですが。なお従来から  
奨学助成金として二十万円の通常予算  
を計上してありますが、如何にも僅少  
で到底目的を達しようものではないと  
思いましたので、この剰余金の一部  
を基金にして優れた研究者への奨励金  
としたい、若い学徒への励ましとした  
ということですが。

そもそも国際会議を運営して剰余金  
ができたということは、会員諸師のご  
協力が如何に大きかつたかということ  
の証明であります。組織委員の方々の  
全国各地から自弁で委員会に何回もご  
出席下さいました。常任組織委員は担  
当により若干の違いはありましよう  
が、数十回あるいはそれ以上の打合せ  
準備等の会合に出席され、その旅費は  
もとより宿泊費も自弁奉仕をしてこら  
れました。常任組織委員の方々に最後  
に打切り旅費として五万円宛を支給  
したのみです。これらの有難い奉仕の  
結果生れた剰余金でありますので、日  
本女医学会の発展のため実りある事業に  
使用することの出来まようご検討ご  
協力いただければ幸だと思っております。  
いろいろの意見が活発にでること  
はそれだけ日本女医学会に関心と愛情を  
持っているということの証明ですので  
日本女医学会の前途は明るいものと信じて  
おります。日本女医学会の前進と発展  
を祈りつつ五月におめにかかるとのを榮  
しみにしております。(三二・二十七)

て発会いたしました。その他学校  
会員は至誠会、鶴風会、  
出身者となっております。  
現在会員数は六十名、支部長、副支  
部長二名、役員として理事八名、監事  
二名、顧問三名を出していただき仲良  
くやっております。

### 支部だより

#### 青森県

支部長 三上 ホフ

青森県支部は昭和三十二年十月、当  
時日本女医学会でおられました佐藤や  
い先生をお迎えして青森市芝菜におい

総会は毎年十月か十一月に研修を兼  
ねて行っております。その他、夏の懇  
親会、一月の新年会と各地区で会合を  
もち、会員相互の親睦をはかり、お互  
の動静を知りあい、互いにはげましあ  
う努めております。昨年は支部発会二十  
周年でしたので会員の皆様に日本女医  
会員のバッジと記念の風呂敷を差上  
げ、研修の方は弘大より講師を招いて  
人工透析について講演を伺いました。  
邦楽、千鳥の曲を宮城県青森県支  
部長の冨えお胸前に感じ入りながら  
大変良い総会をもちました。

昭和三十二年は、県南八戸地区の会  
員の方々のご希望を入れ、八戸で總會  
を開く予定になっております。  
地域の医師会員として、医師会活動  
に協力しながら、日本女医学会として  
の誇りを持ち、団体活動をいたしてお  
ります。

昨夏の国際女医学会の素晴らしかった  
こと、日本女医学会の底力があったこと  
等を想起し、会員の皆様と共に、女医  
の使命に邁進したいと思っております。

#### 宮城県

支部長 安倍 マサ

永くきびしい冬も漸く去り、待たれ  
た春が東北にもやってきました。  
「支部だより」として、何か活動の  
一端を書くようにとのことですが、宮  
城県支部と致しましては特別な活動は  
致しておりませんが、幅広く活躍して



昭51.7 宮城県支部総会

おいでの先生がたも勿論おられます。  
しかし大部分の先生がたは医師として  
家庭人として精一杯の毎日を送って  
おられ、その上女医学会の常時の活動ま  
で手を延ばすことは無理な現状です。  
一昨年は関清子先生、小野敬先生、  
昨年は笹島鏡子先生、山本和歌子先生  
と実に大切な大切な仲間を四人も失  
っております。先ず健康を守りながら  
与えられた生活を円滑に進めること  
が、何より大切なことなのです。

おのずから私共の集り(宮城県支部  
例会)三水会も楽しい、そしてストレ  
スを解消させてくれるような、何でも  
話せるような雰囲気のある会になって  
おります。毎年一月には新年会、六月には  
総会、十二月には忘年会を少し豪華な  
ところで開き、その他他の月にはおでん  
やで開いたり、おすしやで開いたり、  
お当番の先生の顔のきくとところが随時  
選ばれます。このところ仙台にもめつ  
きり、フランス風、ドイツ風、ロシア  
風などの名前も簡単に覚えられない  
ような食物の店が、雨後の筍のように  
出て参りました。こうしたところを適  
当に選んでおります。  
同封致しました写真は去年の支部総

会のものです。中央におられるお髭の方は有名な橋本八百治画伯です。盛岡市にユニークな博物館を自費で開いておいでの方です。素晴らしい画を沢山持参され、先生がたも何枚もお買いになりました。食事をしながら先生の蘊蓄のあるお話に陶醉し、しばしの間、別世界に遊ぶ心地が致しました。時には三水会の会員の御主人様に講師になって頂いて専門外の知識も吸収しております。何れに致しましても、日頃の忌憚りの無い交りにより、和やかな団結を得たいと願っております。そして私共三水会々員は事があれば心を一つにして、力を結集することが出来るという事を共に認めあっております。日本女医学会も、昨年は国際女医学会という大事業を成功させ、その力の大きさを示しました。いろいろなこととがございましたが、皆それが得難い経験となり、大きく成長を遂げるチャンスが到来したと思われまます。ちょうど、この時に大切な定款改正の問題があり、願わくば、正しくスムーズに運ばれますように祈っております。

なお、花と咲いた国際女医学会の実をしっかりと、結ばせることも忘れてならないことと思ひます。その一つとして女医学会独自の調査「日本女医学会の実態」は、今後日本女医学会の貴重な資料として、年々追補を重ね、また英語に翻訳して充分な別刷をつくり各国に配り、将来国際比較に資することが出来るようなものにして行くご配慮を頂きたいと思ひます。

徳島県

支部長 藤田 小冬

日本女医学会徳島県支部は、昭和三十三年九月二十八日創立。当時会員五十五名、定例総会を年一回、必要ある場合は臨時総会を開きます。

支部長 藤田 小冬 (東京女子医専卒)

副支部長 幸田 トミ (帝国女子医専卒)

福永 培子 (大阪女子医専卒)

会員の殆んどは開業医であります。皆それぞれの専門分野で活躍しております。また夫(医師)の補佐役として昭和四十五年七月十三日、四国女医学会が発足。本会々員の大半は、この四国女医学会にも加入しております。この四国女医学会の会員は四国四県に在住する女医たちで、一年ごとに輪番制で当番の日本女医学会支部長が四国女医学会の殆どが加入、日本女医学会の会則のつとめ医療の普及および公衆衛生の向上、女医相互の啓蒙、親睦を図り、もつて女医の社会的使命の遂行と国民の福祉の増進に寄与致しております。會長藤田(日本女医学会徳島支部長)は六十年に及ぶ医療に携わる傍わら地域社会の福祉増進に尽瘁せし功績を認められ、昭和四十九年十一月三日勲四等瑞宝章の叙勲に浴しました。誠に身にあまる光栄と感激に堪えない次第でございます。不肖、私は八十余年の人生行路に次ぎの言葉、常に胸に抱いてけわしい山坂を越えて参りました。すなわち「反省と努力」……私も齢八十を後に宿痾、高血圧と慢性リウマチスになやまされ、到底、日本女医学会支部長の重責に堪えられませんでした。昨年十二月十二日付で日本女医学会事務局へ辞任届を提出しました。しかしながら後任の人選難のため、未だその後任の決定を見ません。実に日本女医学会徳島支部運営上、何とも不本意の極みです。いずれ今年の総会にはきつと適格な新會長(新徳島支部長)誕生を見ることが存じます。

昭和五十二年三月二十五日

高知県

支部長 小出つる子

高知県支部会員は現在七五名、県女医学会は本来、昭和十五年に、元會長宮地國栄先生が、県内在住の女医はすべて仲良く、何でも話し合いが出来る集まりがあるべきだ、との信念から、若し会費が払えない状況にある方でも会員として迎え入れて、何か事があつたらお互いに助け合うという精神で結成され、日本女医学会が再発足した頃からなるべく全員が日本女医学会員になりましょうとの申し合わせをして、現在県の女医学会員八五名中七五名が日本女医学会員です。会費納入状況も今まで三年以上滞納するといふ人は全くない。八五名と七五名の差は、現在再起不能の方や、特種事情のある先生が、日女医に入つていられないからです。前會長窪先生は副會長上田先生、楠田先生がご役員立候補で辞退されてから、はじめての試みとして予備選挙(推薦候補)をしてから、昭和五十一年一月十八日に極め



昭和52年 高知県支部女医学会新年会

昭和52年度 日本女医学会 学位取得者一覧表

支部名	氏名	卒年	出身校	論文名
群馬	川辺 志津子	昭38	群馬大学医学部	母乳栄養の湿疹の発症における食物アレルギーの関与
新宿	扇内 美恵	昭46	東京女子医大	実験糖尿病妊娠ラットにおける臓器内 20a-Mydroxypregn-4-en-3-one の変動について
東女医学内	香川 和子	昭45	"	熱性痙攣の遺伝学的研究
杉並	加藤 彰子	昭41	"	コイ水平細胞の形態と応答
東女医学内	日下部 きよ子	昭44	"	シンテスキヤニングにおける原発性肝細胞癌の <sup>75</sup> se-セレノメチオニンの集積に関する研究
世田谷	重城 敬子	昭46	"	特発性下垂体性小人症の治療に関する研究 ——特に抗成長ホルモン抗体の出現と成長ホルモン療法 の他の下垂体前葉機能に及ぼす影響について——
東女医学内	仙 誉典子	昭45	"	膝関節造影法よりみた変形性膝関節症
"	藤野 礼子	昭44	"	甲状腺機能亢進症患者の抗甲状腺剤治療中に於ける T <sub>3</sub> 抑制試験・T R H 試験
世田谷	向井 美和子	昭41	"	心筋炎の病理形態学的研究
都下	泉 二 登志子	昭47	"	抗リンパ球血清作製における異種リンパ球利用の可能性について

昨秋学位取得者について、全国の医科大学に調査方ご依頼いたしましたところ、二十六校から六十九名のご解答を得ましたが、そのうち日本女医学会会員としてご入会の方は十名という結果です。右記のとおりご報告いたします。

学術部

て公正な選挙をして、会長小出と、副会長寺尾澄恵、竹村陽子両先生、以下理事全員十三名が選出されました。すでにそれまでも、その後も理事会や総会でよく検討し合っており、日女医支部としての役員と、県女医会独自の役員は別に考えるべきではなからうかと討論したのですが、殆どの会員が日女医にも入っているから、兼任でよいとのこと、県女医会長が日女医支部長の仕事もさせて頂いています。県の医師会員は約八〇〇名、その十分の一をしめる県女医会相互の結束は堅く、交流は親密で県医師会からも女医会を一つの分科会として認めて頂いているので県医師会館や内部の機器設備等も、女医会は大いに利用できるという利点もあり、県医師会の代議員や参事、国保審議員にも女医会員が選ばれて入っています。

会員個々または、ご家庭内の冠婚葬祭および何らかの災害に会われた会員には規定により、または、災害の度合いによって救援にかけつける、または手助けをするという組織は、実によくまとまっています。共に喜び、共に助けるという形がすぐ取れるようになっていることは、常々会員間の友情が、出身校別をなして深くつながれ、知り合っている間柄なので敏速に連絡がとれます。

一年一回の新年の集いには、医学関係の肩の凝らない講演会を持ち、会員は出席を楽しみにし、旧交をあたため、新入会員も気易く出席が出来るようにここ二十年前から高知県女医会誌、杏桃(きょうとう)が発行されて、思い出と記録が蓄積されています。秋のレクリエーションの集いには、家族ともども出席し、家庭のつながりにも役立っています。社会的活動としては、身障者、愛盲、青少年補導活動に微力をいたし、県医師会としての社会的活動にも参画するよう努力をしています。

毎月の県女医理事会には友人として誰でも出席して意見を述べたり、楽しく話し合っており、親しさを増すことになった。

### Circular Letter No. 45

February. 22. 1977

国際連絡書記 佐野アヤ子(訳)

一九七七年最初の手紙に元国際女医会長(一九四七-一九五〇) Prof. Charlotte Ruyss は Amsterdam にて本年二月八日に死亡されました。Berlin 会議で黙祷を捧げられました。第十五回国際女医会の報告書はほとんど出来三月末頃に送ります。第十六回国際女医会(Berlin, 1978) Mrs Dax と Berlin に三月初に参り Thieme 国際女医会長および Heuser ドイツ女医会長や他の組織委員と会場や運営の相談をし、ウインにおける本年の幹部会(六月六日より九日)の打合せもした。

Circular Letter No.44(昭和五十一年十二月十五日)にて学術会議の明細を送りましたが演題および演者の名前を一九七七年四月までに提出すること。前述の仮のプログラムは八つの細目分になっており、第八に「その他」と書いてある所に、次の大事な綱目を入れて下さい。

- 1) Sexual Planning 家族計画
  - 2) Contraception 避妊法
- Congress Program および登録用紙は夏の初めに送ります。

○の選挙は Berlin 会議の総会において行われます。候補者の推薦を六月始めまでに提出して下さい。候補者の書いた承諾を必要とする。

第十七回国際女医会々議 (於 Teheran Iran, 1980) 演題は Medical Priorities in Dev-

ています。(但し理事としての評決権はない。)

eloping, Progressive and Established Countries 発展途上国、先進および確立した国の医療の優先権について。第十八回国際女医会々議(一九八二) Berlin 会議の総会において、第十八回国際女医会々議の場および議題が選ばれます。その時の Congress を招待される国および議題の提案をして下さい。

国際女医会は現在八つの地域に分れている。Thieme 国際女医会長は将来において、この地域の配分の改良を求めている。各地域の副会長の意見を求め、または各々の女医会の意見または改良の提案を本部に幹部会の前に提出してほしい。現在の配分は次の如し。

- 北ヨーロッパ 六カ国 三〇〇(会員数)
  - 中 " " 三カ国 一〇〇
  - 南 " " 三カ国 三〇〇
  - 北アメリカ 三カ国 三〇〇
  - 南 " " 三カ国 三〇〇
  - 中央アジア 四カ国 三〇〇
  - 中近東アフリカ六カ国 三〇〇
  - 東太平洋(日本)七カ国 三〇〇
- Martha Kyrle 名誉書記

### 英連邦女医会75周年祝典

英連邦女医会より、本年二月十八日の手紙により七十五周年祝典を Royal College of Obstetrics Gynecology, London University において、本年七月七-八日、二日間行ないます。学術会議および色々なプログラムが

あるので、皆様の参加をお待ちしております。

会議登録費は二日間の学術会議および昼食 tea および coffee 夜の Dinner は六・五〇(八・五〇ポンド)の追加。London 以外の会員の宿泊は朝食付で七月六日-八月九日 University of London, Hall of Residence で限られた数だけ用意してあるので早目に申込下さい。希望者は佐野連絡書記まで。

### 日本女医会理事会議録

日時 昭和五十二年一月二十二日(土) 午後三時十五分-五時四十五分  
場所 至誠会館 四階会議室  
出席者(敬称略) 三神、小侯、山崎、久保田、中川、野沢、福永、松岡、丸山、森川、守安、尾中、大西、川口、川島、佐野、鈴木、竹内、橋本、蓮井、平瀬、藤井、藤田、八木、山本、白浜、添田、森欠席者(敬称略) 川那部、稲葉、大原、野中、野呂、福島、山口

会議の開催にあたり、三神会長より年頭の言葉、'本年のスローガンとして"和の精神"で互いに協調して運営にあたるという事を心して頂きたい'との訓話あり。

- 庶務報告 松岡常任理事
- 退会者 九名
- 高橋千恵子(学内)
- 田中美津子(福岡)
- 梅田日千弘(石川)
- 山崎 淑(高知)
- 山田日出美(大阪)
- 高岸 静子(佐賀)
- 磯田 愛子(中野)
- 菅原 ひで(青森)
- 藤林 静枝(愛知)
- ・会員物故者 三名
- 梅谷 照世(香川)
- 日開 一三(徳島)
- 片山 仁子(福岡)
- ・自然退会者復活 六名
- 大久保(香川)
- 豊田 道子(香川)
- 青木 道子(香川)
- 荻田 冬子(香川)
- 鷲岡カネ子(香川)
- 松浦みわ子(宮城)
- ・入会者 六名

梶浦ケイコ(神奈川)本多 ちよ(静岡) 石野千津子(石川) 松岡 みつ(石川) 関 敦子(港) 坂口 恵江(高知) (会員数大体三九〇名)

・十二月十八日 常任理事会、理事会を行う。

・二十日 名簿用広告を依頼する。

・二十日 鶴風会、加多乃会、至誠会、東女医大に国際女医会議の写真集、フィルムを贈呈する。厚生省、日本医師会にフィルムを贈呈する。

・会員物故者 大淵恒子先生、日開一三先生のご遺族より香典の礼状あり

・早川崇厚生大臣退任挨拶状あり

・波辺美智雄厚生大臣就任挨拶状あり

・石本茂厚生政務次官就任挨拶状あり

・国連NGO国内婦人委員会より国連総会の報告と講演のお知らせあり

・日中友好女子婦人の翼、第一次訪中参加の湯本アサ先生より「かへかけ」寄贈。

・会計報告 福永常任理事 別紙のとおり(十二月分)

議事 一、国際女医会議剰余金についての処分方法のために臨時総会を開催する件 二月二十七日(日) 異議なく決定。

二、臨時総会に関して、次のような意見が出された。  
(a) 日本女医会本部移転の件  
(b) 日本女医会の国際ファンドを増額する件  
(c) 吉岡弥生賞のほかに若い研究者への奨励金  
(d) 施設への寄付  
三、その他  
(a) 定款改正アンケートについて会長案出来上り、さそく印刷の上、全会員に発送のこと 決定  
(b) 至誠会より諸物価高騰により、管理費四万円一月分より値上げ要求あり  
(c) 吉岡弥生賞候補として、学術部

医学に貢献した人  
 浜田 雅先生 関 敦子先生  
 社会に貢献した人  
 肥塚典子先生 近藤み弥先生  
 以上四名の推薦あり。  
 後日、選考審査委員会にて検討される旨学術部の森川常任理事より報告

(d) 入会希望の大韓民国婦人の件  
 定款により医師免許証写のほかに会員二名の推薦を要する旨伝達することに  
 (e) 昨年五月の総会で野村淑子氏の発言の件について、理事会との意見疎通ありて、種々話し合いあり。  
 (f) 国際連絡事項 佐野連絡書記

①一九七八年八月二十七日より九月二日の西ドイツにおける国際女医会議への議題提出は一九七七年四月一日まで。  
 ②一九七七年十一月に四日間、インド、カルカッタで開催の家族計画分科会に出席希望の方は申し出て下さい。三月中旬に希望者数を知らせます。

③北アメリカ女医会副会長より、昨年日本で開かれた国際女医会第一五回国際会議を称えて国際女医会本部に一〇〇〇ドルの寄付をした旨報告あり。  
 山崎事務総長感謝の意を表す。  
 以上 大西保乃・野中久子

日本女医会理事会議事録

日時 昭和五十二年二月二十六日(土)  
 午後三時一〇分～午後五時一〇分  
 場所 至誠会館 四階会議室  
 出席者(敬称略)  
 三神、川那部、山崎、稲葉、久保田  
 中川、野沢、福永、松岡、丸山、森川、守安、柳瀬、尾中、大西、川口  
 川島、佐野、佐藤、鈴木、竹内、野中、野呂、橋本、蓮井、平瀬、藤井  
 藤田、八木、山本、白浜、添田、森

欠席者(敬称略)  
 小侯、大原、福島、山口  
 開会挨拶 三神会長  
 庶務報告 久保田常任理事  
 ・退会者 七名  
 長山トシ(渋谷) 健康上、石橋昌子(和歌山) 健康上、谷絹子(都下)、金和子(足立)、井上敦子(山口)、矢野常子(島根)、相原静江(墨田)  
 ・物故者 五名  
 伊藤かほ(静岡)、山野隆子(千葉)、高田あき(長野)、林てい(都下)、吉原キクヨ(大阪一〇)

・自然退会復活者 二名  
 ・加福ツル(青森)、高垣泰子(大阪六) 入会者 四名  
 丸山徳(埼玉)、水原房子(世田谷)、川井成子(世田谷)、的場睦子(世田谷) (会員数 三九〇二名)  
 一月二十二日 常任理事会、理事会を行う。

二月二日 全国医科大学新卒者に当入会勧誘状を発送す。  
 二月八日 臨時総会の通知を発送す  
 二月十七日 全会員に日本女医会定款と沿革ミニ解説、アンケート依頼返信用アンケートはがきを発送す。  
 二月二十五日 会員名簿を発送す。  
 二月二十六日 吉岡弥生賞審査会を行う。

・支部長変更 新千葉支部長に平松麗子先生  
 ・会員物故者 伊藤かほ先生のご遺族より香典のお礼状あり。  
 ・自民党竹下登全国組織委員長より挨拶あり。  
 ・NGO資料婦人問題推進本部国内行動計画、数冊の寄贈本あり。  
 ・臨時総会設置について、女子医大本部講堂を借用(明二七日午前中にセットをする)  
 ・記録は専門の速記者、テープレコーダおよび庶務二名の三者である。

会計報告 守安常任理事

別紙のとおり(二月分)

承認

議事

一、臨時総会について  
 (a) 日時 昭和五十二年二月二十七日(日)午後一時  
 (b) 場所 東京女子医大本部講堂  
 (c) 式次第  
 司会 松岡常任理事(庶務)  
 開会の辞 川那部副会長  
 会長挨拶 三神会長  
 議事録署名人選出 二名(東京在住)  
 議長 團選出 三名

議事 国際女医会第一五回国際会議  
 議事録署名人選出 二名(東京在住)  
 議長 團選出 三名  
 議事 国際女医会第一五回国際会議  
 議事録署名人選出 二名(東京在住)  
 議長 團選出 三名

閉会の辞 山崎副会長  
 (d) 剰余金処分方法に対する理事会の案として  
 ① 日本女医会の事務所の移転  
 ② 福祉施設への寄付  
 ③ 国際フアンドを増強する件  
 ④ 若い研究者への奨励金 承認  
 (e) 事後処理 委員会を設け委員の選定は理事会に一任 決定  
 二、その他  
 (a) 吉岡賞について 審査委員会の選考の結果  
 社会に貢献された  
 近藤みね先生 大正十一年東女医大  
 肥塚典子先生 昭和二十六年関西医大  
 卒、福奈川県川崎市  
 大正、大阪市大正区  
 医学に貢献された  
 浜田雅先生 昭和二十三年東邦大卒  
 都下保谷市  
 関敦子先生 昭和二十九年東女医卒  
 東京都港区

追記 近藤みね先生は昨年十一月、荒川あや先生の推薦あり、十二月三日に逝去されたので、今回は特例として楯を贈り、今後は生存者に限ると銘記する必要あり。承認  
 (b) 野村淑子氏の件  
 問題が会費徴収に関するものとなつて、会長立合いのものとて福永会計理

事と話し合いの申し出があり、京王プラザで行われた。野村氏より文案の提出あり、会計担当理事が相談して処理することに決定。  
 (c) 会長より日本交通公社訪中旅行団参加についての説明あり。(日本女医会と中国女医会との交流を目的として)  
 (d) 国際女医会に寄付の件 よく協議すること。  
 (e) 広報部丸山常任理事より会誌六九号が印刷所の都合によりおくれると報告あり。  
 (f) 四月の理事会は第四土曜日二十三日に行う。以上 竹内静香

事務局だより

左記会員の住所をご存知の方は本部までお知らせ下さい。  
 住所不明者氏名(敬称略)  
 北海道 岡崎昭子、小山陽子、斉藤明子、相沢美子  
 山形 関靖子、羽賀久子  
 岩手 宮川ユウ  
 宮城 小島富子  
 群馬 佐藤恵子、藤田万里子  
 埼玉 木戸俊子、森田玲子  
 栃木 宮下光子  
 茨城 小池紀子  
 千葉 久保高子  
 荒川 福島敦子  
 江戸川 原 関子  
 大田 羽田益子  
 品川 調所水浜  
 品川 武石展代  
 品川 高寿代  
 品川 高寿代  
 品川 高寿代  
 品川 高寿代

新宿 麻田ひでみ、阿部明子、今川信子、今村絃子、植田和子、岡田博子、風間厚世、賀川治美、北崎真智子、草野道子、近藤桂子、榎原ヤス子、清水真理、鈴木まきえ、砂川佐知子、高柳真由美、千葉春美、白秀郷、細川美智子、本田典子、宮島節子、宮原茂子、宮

本俊子、山口久美子、山田真理子、吉丸芳美、許田洋子  
 杉並 久保栄子、河野洋子  
 世田谷 石井節、石飛アミ子、千葉紀子、千葉ヨリエ、中村恵美子  
 中山博子、松下フエ、横田淳子  
 台東 佐藤康子  
 千代田 野瀬弘子  
 豊島 米山滋子  
 中野 楠本敬子  
 練馬 小暮正子  
 文京 遠藤正枝、大塚睦子、林真己子、広江ひろみ  
 港 中島幸子、林田美保、山口と

都下 後藤登美子、亀田淑子、河野さかみ、葛西庸子、黄富士子、石雲サカエ、田辺和子、米沢美枝子  
 神奈川 美枝子  
 愛知 梅沢イエ、安江厚子  
 長野 坂口都子  
 新潟 斉藤雅子  
 大阪6 中野好子  
 大阪7 土屋永子  
 大阪9 宮崎富智子  
 大阪10 遠藤律子、広瀬齊、吉江由美子  
 京都 蒲田迪子  
 兵庫 土橋満智子  
 広島 阿部千枝子、大田恵子、杉弘子、高野晴子、滝川沢子、本永菊美、山本みゆき  
 福岡 橋本一栄  
 福岡 植村彰子、田中治子、吉永スミエ

昭和五十二年四月二十日印刷  
 昭和五十二年四月二十五日発行  
 編集人 丸山美実  
 発行人 日本女医会  
 発行所 東京都新宿区  
 社団法人 日本女医会  
 TEL(丸)〇九六八  
 印刷所 東京都港区白金五〇四一  
 興業美術印刷株式会社